

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
------	----	-----	----	-----	----	-----

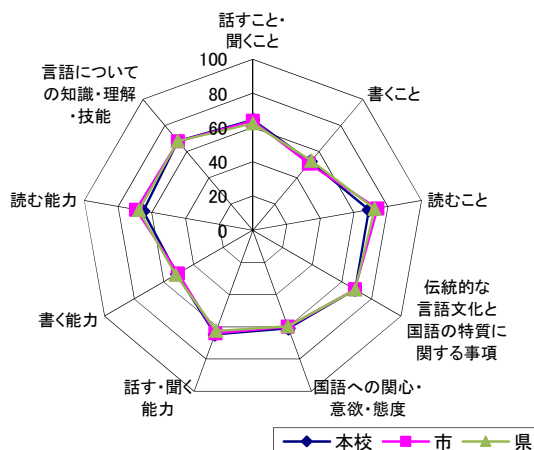
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.6	64.0	62.5
	書くこと	52.4	50.9	53.1
	読むこと	68.8	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.0	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	60.9	59.9	59.7
	話す・聞く能力	64.6	64.0	62.5
	書く能力	51.2	50.4	52.0
	読む能力	65.1	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.1	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

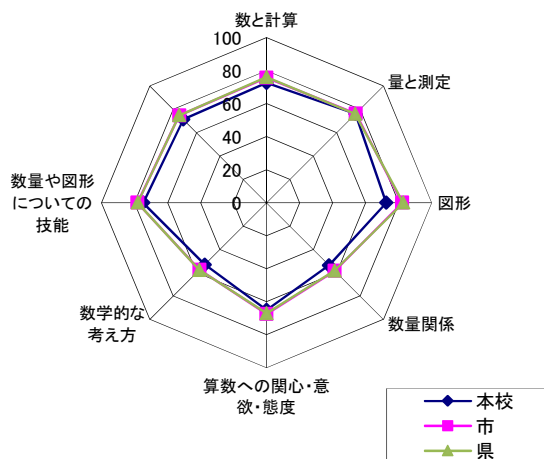
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。観点別の分析においても同様である。</p> <p>○話し方の工夫に注意して聞き取る問題は、よくできている。</p> <p>●話し合いの内容を聞き取り、話題に沿った意見と理由を考えて話すことに課題が見られる。</p>	<p>・話し合い活動の機会を大切にし、友達との意見交換を活発にできるよう指導していく。</p> <p>・自分の考えとその根拠、理由を意識して、相手に伝えることができるよう、自分の考えをまとめる時間を十分にとり指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○指定された長さで文章を書くことができる問題は、県の平均より高い。</p> <p>●2つの方法のうちどちらがよいと思うかを明確にすることとその理由を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・各教科の授業の中で、「今日の学び(振り返り)」をノートにまとめる活動や自分の考えを書く活動を行っていることの成果が表れてきたと考えられる。今後も自分の考えと、その根拠や理由を意識して文章に表現していくことを丁寧に指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>○物語文では、文章全体から登場人物の気持ちを読み取ることができている。</p> <p>●説明文では、段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・物語文の指導では、叙述をもとに登場人物の心情の変化や場面の様子を捉えられるように指導していく。</p> <p>・説明文の指導では、接続語に着目しながらそれぞれの段落がどのような関係や意味をもっているのかを考えて文章を捉えるなどの活動を意図的に取り入れ、段落の役割について理解できるようにしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○国語辞典の使い方に関しては、よく理解できている。国語辞典を使って調べる作業を繰り返し行ったことにより身につけてきたのではないかと考えられる。</p> <p>●漢字の読み書きについては、県や市とほぼ同じ平均正答率だが、漢字を書くことについての平均正答率は低く、課題が見られる。</p>	<p>・授業で新出漢字を学習する際には、国語辞典や漢字辞典を使用する機会をもつ。</p> <p>・漢字の読み書きや言葉の意味、送り仮名についても授業で丁寧に扱うようにする。さらに、既習の漢字や熟語を正しく用いて文章を書くことができるよう、指導していく。</p>

宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.6	75.8	76.1
	量と測定	76.1	76.5	76.0
	図形	72.5	82.1	82.7
	数量関係	53.5	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	64.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	53.0	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	74.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	71.4	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

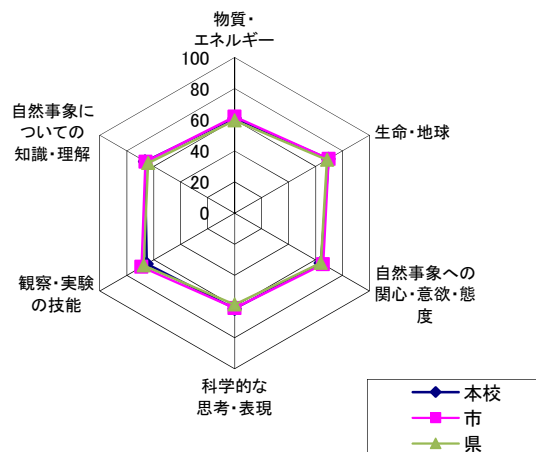
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○たし算やかけ算、ひき算の計算はよくできている。基本的な問題を繰り返し行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>●わり算の基本的な計算問題に課題がある。</p> <p>●小数のしくみを理解し、正しいものを選ぶ問題に課題がある。</p>	<p>・今までの学習内容を確実に身に付けることができるよう、朝の学習や宿題の課題を計画的に実施し、基本的な計算の習熟を図っていく。</p> <p>・小数のしくみについては、0.1を単位としてみることで理解できていないと考えられる。1Lますの図や数直線などに表す活動を丁寧に行い、小数のしくみを理解させる。</p>
量と測定	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じ。</p> <p>○はかりの目盛りの読み方を理解しているかを問う問題はよくできている。授業の中で実際にはかりを使って学習した成果があらわれたと考えられる。</p> <p>●身近なものの重さの単位を選ぶ問題に課題がある。</p> <p>●ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題に課題がある。</p>	<p>・ものの重さは見かけだけでは捉えられない量のため、児童自身が手に持ったり、身に付けたりする活動を授業で行う時間を十分にとるようにする。</p> <p>・時刻や重さについて基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、身に付けた知識を活用できるような学習問題を授業の中でも扱っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める問題に課題がある。</p> <p>●与えられた1辺の続きをコンパスを使って正三角形を作図する問題に課題がある。</p>	<p>・直径や半径、辺や頂点などの図形に関する正しい用語や記号、形の認識や定義などを正しく理解させるとともに、具体物を操作したり、作図したりする学習活動を多く取り入れながら、図形の性質を理解させることができるようにする。</p> <p>・図形の性質を確認しながら作図したり、様々な観点で図形の特徴を調べ整理したりする学習活動を丁寧に指導していく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>○□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶことはできている。文章問題を解く時に図や数直線を使い問題場面を捉えてから立式することを授業で行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>●棒グラフを正しく読み取ることができた児童は県の平均よりも低い。</p> <p>○棒グラフをかくことができない理由を棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して説明する問題の平均正答率は、県の平均正答率より高い。</p>	<p>・文章問題については、今後も引き続き、問題場面の把握をしっかりと行うようにする。</p> <p>・理由を記述する問題に対して無記入児童が多い。事象をより簡潔、明瞭かつ的確に表現することができるようにする。</p> <p>・グラフから読み取ったことを説明する活動では、お互いの説明について、簡潔で分かりやすく表現できているかの視点で話し合わせるようにする。</p> <p>・学習の定着度の個人差が大きいので、個別学習や少人数指導などで、一人一人の実態に応じた支援を行っていく。</p>

宇都宮市立西原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.0	61.9	59.4
	生命・地球	69.6	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.9	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	61.3	61.0	58.8
	観察・実験の技能	65.2	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	66.5	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均より高い。</p> <p>○「光のせいしつ」や「風やゴムのはたらき」の問題では、自然事象についての知識・理解の平均正答率が高く、科学的な思考・表現についての問題の平均正答率も高かった。実験器具の使い方や実験方法をよく確認し、実験結果の検討を繰り返したことが要因であると考えられる。</p> <p>●「物の重さ」や「電気の通り道」の科学的な思考・表現について課題が見られた。理由を文章で説明する問題の平均正答率が低かった。</p>	<p>・今後も、実験器具の使い方や実験方法をよく確認し、安全性を確保するためのポイントや正確な計測結果につながるポイントなどを話し合わせる活動を行い、観察・実験の技能の向上と知識の定着を図る。</p> <p>・実験の結果や考察を文章でまとめる活動の時間を十分に与える。また、自分の考えの根拠となった理由や実験結果から類推されることなども発表し合うことを継続的に行う。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じで、県の平均よりやや高くなっている。</p> <p>○「太陽と地面のようす」については、太陽と影の位置の変化を方位で捉えることができている。午前から午後にかけて数回観察した結果をもとに、太陽と影の関係について正しく理解している。</p> <p>●「植物の育ち方」について課題が見られた。種の大きさの差異によるまき方の違いの理解が不足している様子がうかがえる。</p>	<p>・「生命・地球」に関する知識・理解の問題の平均正答率が全体的に高い。今後も観察や実験などを通して、継続して知識・理解の定着を図った指導を行っていく。</p> <p>・観察・実験の技能に関する平均正答率が全体的に低い。観察・実験の結果だけでなく、手順や実験を正確に行うポイントなども丁寧に説明したり、細かく確認したりしながら、技能を十分に身に付けさせる必要がある。</p>

宇都宮市立西原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習の取組に関する設問については、肯定的回答の割合が市や県に比べ高い傾向が見られた。しかし、宿題の量や内容についての設問の肯定的回答の割合が市や県に比べやや低かった。現在は、単元テスト等の結果をもとに学年で共通した内容を計画的に与えているが、今後は児童一人一人の実態に合わせて、宿題の量や内容に差をつけるように工夫する必要があると考える。

●読書については、本を読む時間は市や県と比べてほぼ同じだが、1か月に読む本の数が市や県に比べて少ない。様々な教科の授業の中で本を紹介したり、授業の調べ学習等で図書館に行く機会を増やしたりして色々なジャンルの本にふれる機会を与えるようにする。

○学ぶ意欲については、どの設問も市や県に比べ肯定的回答の割合が高い傾向が見られた。「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という設問に「はい」と回答した児童の割合が高く、学ぶ意欲のある児童が多いことが分かった。

○授業については、「発表する」「話し合う」「振り返る」「ノートに自分の考えを書く」等についての肯定的回答の割合は、市や県に比べ高かった。本校がこれまでに研究してきた学習指導の成果であると考えられる。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問の肯定的回答の割合は、市や県と比べ低かった。与えられた学習課題には、意欲的に取り組んでいるが、自分から学習課題を設定し見通しを立てて解決できる子どもを育成できるよう、総合的な学習の時間だけでなく各教科の授業の指導の仕方を見直していく必要があると考える。

●教科(国語、社会、算数、理科、総合的な学習の時間)については、「好き」という回答の割合が市や県に比べて高かった。しかし、「分かる」「将来のために役に立つと思う」の肯定的回答の割合は、教科によってばらつきがあった。どの教科も「分かる」「できる」「楽しい」授業が実現できるよう学習指導について再度共通理解を図っていく。

○学校生活については、「自分はクラスの人役に立っている」「係の仕事をもっと取り組んでいる」の設問では、「はい」と回答した児童の割合は、市や県に比べ高かった。

●「学校のきまりを守っている」という設問について「はい」と回答した児童の割合が、市や県と比べて低かった。道徳の時間において、きまりを守ることの大切さを考えさせたり、学校生活の中できまりを守れなかったことについてはその都度一人一人に丁寧に指導していく。

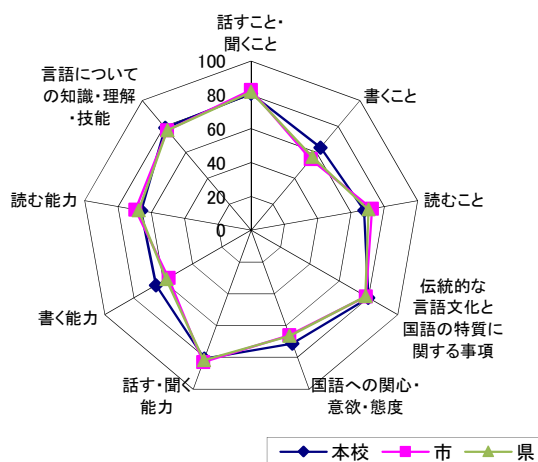
○家での生活については、「早ね、早起きを心がけている」「毎日、同じくらいの時こくにねている」という設問の肯定的回答の割合は、市や県に比べ高かった。また、「家の人と学校のできごとや将来のこと、学習について話す」「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答の割合も市や県に比べて高かった。

●ふだん(月～金曜日)の日の1日当たりのテレビやビデオ、DVD、テレビゲームの時間は、市や県に比べて低かったが、スマートフォンやインターネットの使用時間は、市や県に比べて高い傾向が見られた。今後、学級活動の時間等で児童に指導したり、学年懇談等で保護者にも協力をお願いしたりする必要があると考える。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.8	82.9	81.8
	書くこと	63.8	54.8	56.5
	読むこと	67.9	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.0	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	71.3	66.0	66.4
	話す・聞く能力	80.8	82.9	81.8
	書く能力	65.0	56.3	57.9
	読む能力	66.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	79.0	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

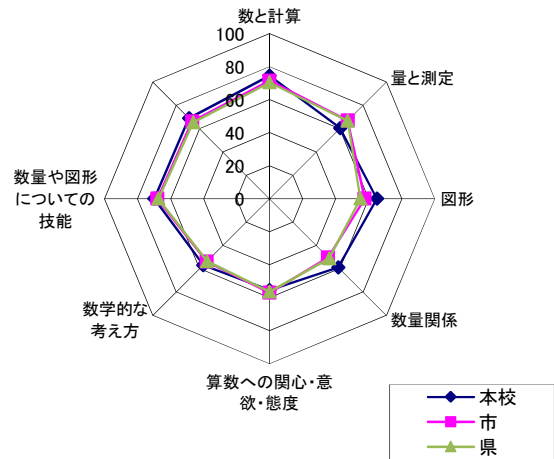
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○話し方の工夫について注意しながら聞くことができている。</p> <p>○複数の意見から共通点を見出すことができている。</p> <p>●話の中心に注意して聞き取ることに課題が見られる。</p>	<p>・話の中心はどんなことか、要点になりえることはどんなことか予想してから話を聞くように指導していく。</p> <p>・普段の教師の話を書くときに、重要な部分はどこか考え、そこを聞き逃さないようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○自分の考えが明確になるように文章を書くことができている。</p> <p>●資料から情報を適切に読み取り、内容を要約して書くことに課題がある。</p> <p>●指定された段落構成で書くことに課題がある。</p>	<p>・各教科の資料読み取りの際に、多くの情報の中から必要なものを抜き出す練習を繰り返す。</p> <p>・段落の意味について再度確認をする。特に、国語科の作文指導時に行っていく。</p> <p>・2段落や3段落、4段落での構成の仕方について指導する。また、文章の多くは序論・本論・結論に分かれていたり、起承転結の形になっていたりすることに着目させる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○物語の場面の様子や登場人物の気持ちを的確に捉えることができている。</p> <p>●説明文の内容を的確に読み取ることに課題がある。</p> <p>●段落のまとまりを理解して、文章全体をおおまかに捉えることに課題がある。</p>	<p>・似ているいくつかの文章の言葉の違いに着目し、それぞれの意味を正しくイメージしながら読み取ることができるように指導していく。</p> <p>・3・4年生を通じて、文章全体の中での段落の役割について理解できるように指導を工夫する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。</p> <p>○4年生のときに習った漢字を読むことがよくできている。</p> <p>○連体修飾語の係り受けを理解できている。</p> <p>○漢字辞典の使い方を理解できている。</p> <p>●漢字を書くことに課題が感じられる。</p> <p>●連用修飾語の係り受けについての理解がなかなか図られていない。</p>	<p>・既習漢字をまんべんなく復習できるような指導の工夫を行う。</p> <p>・習った漢字を使って文章を書くことをさらに推奨し、漢字を正しく使うことへの意識を高められるようにする。</p> <p>・3・4年生を通じて言葉の特徴や使い方に関する指導を丁寧に行う。修飾と被修飾との関係の中でも、体言(名詞)と用言(動詞・形容詞・形容動詞)の使い分けや係り受けが理解できるように指導を行っていくようにする。</p>

宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.5	71.5	70.4
	量と測定	60.4	67.0	66.9
	図形	65.0	57.6	55.0
	数量関係	58.8	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.4	57.0	56.3
	数学的な考え方	56.8	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	69.8	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	69.0	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

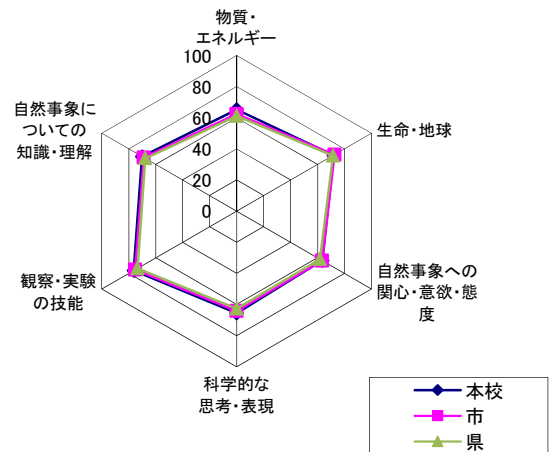
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○小数のかけ算、わり算の計算の仕方については、よく理解できている。授業や家庭学習で繰り返し計算練習を取り入れた成果であると考えられる。</p> <p>○概数の表し方についてもよく理解している。</p> <p>●十進位取り記数法や、数直線上の分数の読み取り、除法の暗算についてはさらに理解を深める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な小数の計算に引き続き繰り返し取り組ませる。 概数を用いた計算で四捨五入をする位について理解できていない児童には個別に支援していく。 十進位取り記数法や数直線上の分数の位置関係など、数の関係を理解しやすいよう、図や数直線の活用など資料を工夫して指導していく。
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○長方形の面積の求め方は理解している。</p> <p>●複合図形の面積の求め方を、筋道を立てて考える力をつけていく必要がある。</p> <p>●分度器の正しい読み方や使い方の理解が十分ではなく、知識・理解を身近なもののおよその面積に適用する力をつけることにも課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定規の使い方に慣れていない児童には、その都度個別に支援していく。 角度の捉え方や分度器の正しい読み方や180度より大きい角の2通りの求め方について、再度説明し復習させる。 複合図形の求積や分度器を使った作図などを習熟できるよう、様々な資料や問題を朝の学習や家庭学習等で行っていくようにする。
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○四角形の対角線の性質や、直方体のある辺に垂直な辺をよく理解している。図形の学習において、掲示資料や模型を活用するなど、教材を工夫して指導したことの成果であると考えられる。</p> <p>●ひし形の作図は県とほぼ同じ正答率ではあるが、課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある様々な図形を見たり調べたりして図形の特徴や定義・定理を理解させたり、様々な図形の問題を解いたりして、図形についての基本的な知識の定着を図るようにする。 作図の問題では、どの用具をどのように使うと作図ができるのか、図形の定義と性質を照らし合わせ、児童同士で話し合いながら作図の手順を考えていくような授業を行っていく。
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○伴って変わる2つの数量関係を表に表し、変化の特徴を調べることがよくできている。また、その関係を口と○を使って式に表すやり方もよく理解している。</p> <p>○問題場面から、どのような計算のきまりを使っているか判断し、正しい式を選択することができている。</p> <p>●四則の混じった計算の順序が課題である。加減と乗除の両方が一つの式にあると、どれを優先して計算すればよいのかわからない児童が目立った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる数量の関係を学ぶ際は、表から変わり方のきまりを見つけさせる時間を十分に与える。また、一方が変化すると、もう一方がどのように変化するのか2つの数量の関係を調べ説明する活動を今後も行っていく。 分配式、結合式のやり方を押さえ、様々な問題場面に取り組むことで、適切な式に表す学習を引き続き指導していく。 四則が混じった計算では、理解できていない児童には個別に計算の手順を確認する。計算をするだけでなく、いくつかの数字の間に入る四則の記号を考える問題等を解く学習も取り入れていく。

宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.2	62.4	61.1
	生命・地球	71.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.5	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	65.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	76.3	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	70.1	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>この領域での平均正答率は市の平均より高い。観点別の分析においても市の平均をすべて上回っている。</p> <p>○熱した金属球が輪を通らなくなる様子から金属の膨張を推測する問題では県とほぼ同じ平均正答率である。</p> <p>○ピーカー内の水が沸騰して蒸気が出ている図を見て、液体と気体を正確に見分ける問題では県の平均正答率より高い結果を得ている。金属の膨張も三態変化の見分け方も実験の結果を正確に想起して答えることができていた。</p> <p>●空気の温まり方や空気と水を閉じ込めた注射器のピストンを圧すとどうなるかについては平均正答率が低い。空気を温める時の道具の特性を理解することが課題である。また、空気と水という性質の異なるもの同士に同時に力を加えるとき、それぞれの性質が保持されることを理解することが課題であった。</p>	<p>・今後もめあてを明確にした実験を行い、実感を伴った理解が得られるよう授業を展開していく。</p> <p>・空気と水の性質については、閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことについて、演示実験をして再度確認する。</p> <p>・空気の温まり方の問題では、対流式のストーブがどのように空気を温めるかというものであった。校内のストーブは天板が熱くならずファンで熱を周囲に放出する仕組みになっているため、場面を想像しにくい児童が多かったのではないかと考えられる。「天板から直上に暖気が上がるストーブの空気の温まり方」については、補足説明していくようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均よりやや低い。</p> <p>○オオカマキリの一年間の様子や半月の名称などは市の平均正答率を上回った。校舎中庭の池やビオトープで蛍の幼虫を育てたり、夜に蛍の観察に来たりするなど、日ごろから自然と親しむ経験が昆虫の様子や夜空の様子に目を向ける機会を作り、生活と結びついた生きた知識として根付きつつあるのではないかと考えられる。</p> <p>●月の形の呼び名とは別に、観察できる方位については市の平均正答率を下回った。観察場面での方位と地図上の方位、実生活の方位との間には空間的なねじれが生じているため、正確な判断基準を持たせることが必要であると考えられる。</p> <p>●自然の中の水は沸騰しなくても蒸発をしていることについての理解に課題がある。沸騰させているときは水蒸気を泡で可視化することができるが、自然界では沸騰による蒸発の場面が少ないため物質・エネルギー分野で十分な理解を得られているにもかかわらず、本分野での理解が低かったと考えられる。</p>	<p>・今後も自然の生き物や、その生態について興味深く観察することができるよう環境整備や教材の準備を継続していく。</p> <p>・方位に関しては八方位を教室に掲示したり、関連する内容の学習で復習したりすることで、日常的に八方位に対しての正確な判断基準が得られるようにする。</p> <p>・蒸発に関しては床に映る大気の揺れる影や逃げ水などの現象を確認できる時間を適宜見つけて、自然界での水分蒸発を可視化に近い形で体験させるようにする。</p>

宇都宮市立西原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関して、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問においては、肯定的回答の割合が市や県の割合よりも高かった。家庭学習の方法について具体的に例示し、継続して取り組んできた成果であると考えられる。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合が、市や県の割合を下回っている。自主学習に取り組む時に、各教科の授業の復習をすると学習内容の定着に効果的であることを助言し、実践に繋げていきたい。

○読書については、1日当たり1時間以上読書する児童の割合が約5割であり、「1か月に、何さつくらい本を読みますか。」の設問については、10冊以上と回答した割合が市や県の割合を上回っている。本校の児童が、豊かな読書体験を積み重ねている様子がうかがえる。今後も、学校図書館司書と連携し、児童が様々な分野の本に親しんでいけるよう支援していきたい。

○学ぶ意欲に関して、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問について肯定的回答の割合が、市や県の割合よりも高く、児童が知的好奇心や向上心をもって、学習に取り組んでいることがうかがえる。また、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についても、殆どの児童が肯定的に回答し、日々の学習の大切さについて認識していると思われる。今後も学ぶ楽しさや達成感を十分に味わわせられるような授業を展開できるよう努めていきたい。

○学校での様子に関して、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことに抵抗がない」の設問では、肯定的回答の割合が市や県の割合を上回っている。本校の児童が自分のもっている力を発揮しながら、自信をもって学習に臨む様子がうかがえる。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」についても、肯定的回答の割合が市や県の割合を上回っている。本校がこれまで学校課題の研究として、授業の終末に「今日の学び」として振り返り活動に重点をおいて指導してきた成果が反映されている。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童の割合は、市や県の割合よりも高い。学校全体で児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達と互いのよさを伝え合う活動などを実施して自尊感情の育成に努めている成果であると考えられる。今後も家庭と連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していきたい。

●「時間を上手に使うことを、心がけている」と答えた児童は、市や県の割合よりも低い。各活動では学習予定や時間を示し、自分たちで判断しながら見通しをもって学習や活動に取り組ませるようにしたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」と答えた児童は市や県の割合よりも高いものの、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」と答えた児童が、市や県の割合よりも低い。意図的に知ろうとしなくても入ってくる情報は知っているものの、関心は低いと考えられる。地域のことはもちろん、離れた場所で起こったことなども自分に身近な事として考えることもできるよう、各教科の授業や朝の会、帰りの会の時間を使いながら児童の関心を高め、社会に見られる課題を把握し、解決に向けて構想する力を育てていきたい。

宇都宮市立西原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう全教職員で共通理解を図ってきた。	5年の国語・算数の基礎・基本の正答率は、市や県と比べやや高い傾向であった。しかし、4年の国語の漢字の読み書きや算数の計算問題ができていない児童が多く、課題があった。
体験活動や課題解決的な学習の展開、思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫・改善	言語活動の充実、学び合いの場の設定、ノートや板書の工夫、振り返り活動の充実を行い、児童が学びを実感できる授業を目指してきた。	児童質問紙から、グループや全体での話し合い活動に進んで参加したり、発表したりすることが得意であるという児童の割合が高い傾向があった。また、「自分の考えを文章にまとめることに難しさがある」と回答している児童の割合は、市や県に比べ低い傾向が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4年生の国語・算数の「基礎・基本」の習熟に課題があった。国語の「読むこと」の正答率が市や県に比べて低かった。	児童の実態に応じたきめ細かな指導の徹底と基礎・基本の確実な定着を目指した支援・指導	各学年で課題と見られる部分を明らかにし、日頃の授業の指導の仕方や朝の学習の計画を見直す。特に、国語の「読むこと」については、国語の授業の進め方を全教員で再度共通理解を図る。また、朝の学習や家庭学習の時間を活用しながら、重点的に指導していく。